

比較文化会報

June 1985 No.6

事務局 青森県弘前市稔町13-1
弘前学院大学英米文学佐藤研究室
電話(0172)34-5211 内線 32

発行者 山 浦 拓 造
編集者 芳 賀 馨

インフォーマリテイ

―日米文化比較の基礎項目―

事務局長 西 村 清 巳

一昨年、二か月の在外研究から帰った時のことである。大学の事務局に顔を出したら「先生、若い女性との旅行はいかがでしたか」とある事務官に言われた。その顔付から、冗談である事はすぐに分かったが、そのように言わせる手紙を彼は手にしていたのだ。

手紙は、弘前大学の姉妹校テネシー大学マーチン校(UTM)から筆者にあてたものであった。あて名が筆者個人でなく、国際交流委員長の肩書であったため、研究室に回らず大学事務局の方に届いたのだった。あいにく受取人は海外旅行中、急ぎの用向きでないかとの配慮から係として開封したとの説明であった。委員長あてのものとおれば公文書であり、当然の処置である。問題はその文面にあった。手紙は Yumi's a fine young lady という英語で始まっていた。およそ「公文書」に似つかわしくない内容である。ファイン ヤング レイディと書かれた、ユミなる女性は一体何者だろうという話になったらしい。言われてみれば、その少し前に、某国立大学の助教授がヨーロッパへ在外研究員として出張した際、バーで働く女性を同伴して問題になった

事件があった。

急いで付け加えるが、筆者の場合はその様な艶っぽい話ではない。Yumiとは筆者の娘のことである。夏休み中、遊ばせておくよりはと考え、UTMに学ばせていたのである。

問題の手紙は弘前大学との国際交流に関する連絡で、UTMの国際企画部長からのものであった。彼は筆者の十年近い友人である。その気安さもあったのかも知れない。手紙を、筆者の娘の近況報告から始めていたのである。

このエピソードは、手紙に関するインフォーマリテイの日米の差を示してくれる。日本では、その様な私的な文面は公的な手紙に入れず全く別の手紙で処理するであろう。かりに含めるにしても、せいぜい手紙の最後の所に入れるのが普通であろう。問題の様な文章で公的な手紙を始めるのは「公私混同」という印象を与える。

この手紙の一件では、英語と日本語の翻訳の問題も絡んでいる。Young lady を「若い女性」と訳した瞬間に独得なニユアンスが生じる。「若い女性と海外旅行」となれば週刊誌の記事になってもお

かしくない連想が湧くから不思議である。

インフォーマリテイの点では、先日も似たようなことがあった。4月から弘前大学に留学することになったUTMの女子大生が学長と会うのに立ち会った時のことである。指導教官と一緒に学長室に入ってきた彼女は筆者がいるのを見るとニコリとした。外国の大学で知った顔を見れば日本人学生も同じ様な態度をとるであろう。しかしそのあとが違う。彼女は筆者に向かって大きく手を振るのである。学長室という公的な場所ではこれも日本人には「公私混同」という印象を与えることは否めない。

アメリカ人留学生をホームステイをさせると色々ないざこざが生まれる。ホストファミリーの方の苦情も、留学生の不満も、一つ一つはカルチャーショックと呼ぶには余りにも小さい事が多い。しかし、その小さいぬ事が、たいていの場合ホームステイの中断につながるのだから恐ろしい。インフォーマリテイもこの小さい例の一つである。

文部省は今後十五年位で、今の十倍の留学生を受け入れたいという青写真を示している。物理的、経済的な問題も多いが、このインフォーマリテイの様な基礎的項目の文化比較が必要になってくる。さもないと国際理解を増すつもり留学生の受入が、文化的摩擦の増大と、日本嫌いの増加に終る恐れがある。

(弘前大学医療技術短期大学部 教授)

山田太一のメッセージ

芳賀 馨

テレビドラマは、制作者・脚本家・演出家・俳優その他あらゆるメンバーの協力のもとに放送された作品が完成された総合的芸術作品である。アメリカの「テレビドラマの黄金時代」においても、特に制作者と脚本家の宿命的巡り合せが作品の成否にかかわる決定的要因だったといえる。日本では、たとえば、TBS金曜ドラマ「岸辺のアルバム」の制作に関して、各分野のメンバーが記述した制作メモ（「年内テレビベスト番組」源流社・一九七七、二三五一四六頁）や「芸能舞台再訪、東京・狛江（岸辺のアルバム）」（「朝日新聞」一九八二・九・三〇）などを読むと、「岸辺のアルバム」の経緯がよく理解できる。私は、前述の意味で、この放送芸術作品を、山田太一ドラマの原点として高く評価している。

一方、文学的作家論の立場からは、脚本も独立した芸術作品と規定する。山田太一の描く世界は、「等身大のドラマ」「辛口ホームドラマ」などと言われているが、彼の創作態度は、比較的初期の作品「幸福駅周辺・上野駅周辺」（教育資料出版・一九七五）「それぞれの秋」（大和・一九八二）「緑の夢を見ませんか？」（大和・一九八三）などから今日に至るまで、すべて、心理的リアリズムで統一されている。平凡な人間社会の実際の様相とその環境における作中人物の深層心理を、淡々と述べていくのである。些細な日常性を主題とする彼の態度は、まさに、バディ・チェイ・エフスキーのテレビドラマ論のそれに符号するのである。さて、私が表題に示したメッセージという語の意味は、作家が描く独得な世界を通して、読者や観客に訴えようとする内容のことである。「些細な日常性」は一見平穏に見える現実の中に、不安定な諸々の要件を深く内包しているものなのである。「早春スケッチブック」（大和・一九八三）のあとがきで、山田太一はその日常性に言及している。

「さしたる問題のない家族でも暮して行くというのは、無数の些事を克服して行かねばなりません」（三一六頁）

「岸辺のアルバム」（東京新聞出版局・一九七七）の中で、見知らぬ男（北川）からの電話に心理的傾斜を感じた則子が、「男の視線を意識して歩くことの快感」（一九頁）を思ったり、「きりつめて暮らし、たいした楽しみもなく、これで男性と雑談してもいけないというんじや、まるで奴隷ぢやないの」（六六頁）と自分の環境に不満を抱く姿は、日常性に内在する不安定な一種の緊迫感を現すものである。この種の要素は、「夏の故郷」（白石書房・一九七六）の乗子や正子、

さらに兄の俊太郎などを始めとして、「沿線地図」（作品社・一九七九）の季子や麻子、「想い出づくり」（大和・一九八二）の反逆する例の三人娘、「夕暮れて」（大和・一九八三）の瀬島喬子、「ふぞろいの林檎たち」（大和・一九八三）の四流大学の学生群像、また、「輝きたいの」（大和・一九八四）に描かれた女子プロレスを目指す由加などに、一貫して指摘し得るものなのである。日常性の殻を破壊したいと狂おしいばかりに苦悩する心情は「真夜中の匂い」（大和・一九八四）の、篤子のつぎの言葉に至って緊迫感は頂点に達すると私は解釈する。

「あなたをいい値で買いたい。一晩だけ買いたい」「侮辱だなんて思わないで。むしろ、へり下ったつもり。お金ぬぎで誘う年じゃないでしょう。感情はぬぎていいの」（二一五頁）

私はここで、テネシー・ウィリアムズ「欲望という名の電車」の最後のシーンで、結局精神病院へと連れ去られる時に、極限まで追い込まれたブランド・デューボアが、人の情にすがる痛ましい程の哀しさを想起するのである。経済とか道徳などという常識的社会通念が、実に無意味なひびきしか有し得ない程の、人間の悲痛な「業」を読者や観客は感じるとる筈である。また、作者は「真夜中の匂い」の祐作について述べている。

「……ただわずらわしい石（祐作）が、徐々に人々を魅了し、人々はその石によって潤い、しかし遂には排除してしまおう。」（三四九頁）

社会は何故このような人々をもっと暖かい眼で受容しないのだろうか、と、作者は訴えているのである。

則子と並ぶと、妙に照れくささが先に立った。力をかしてくれといったかった。しかし余り露骨な言葉は声にならない。「アルバムは嬉しかった」そういった。則子はうなずく。（四五四頁）

「岸辺のアルバム」における「アルバム」の象徴的意義は四つの段階で展開するのであるが、アルバムについての右の謙作の言及は、変容した彼の、妻に対する思いやりを端的に示すものである。

経済の高度成長に伴なって機械化する敵しい物質文明社会にあつて、「チャタレー夫人の恋人」を通してD・H・ローレンスが警告を発し、それを受けついでT・ウィリアムズがすべての作品で読者や観客に訴えつけてきた人間の心情の優しさ（tenderness）。「男たちの旅路―車輪の一步―」（日本放送出版協会・一九八二）などに直截的に見られるように、上述の意味での「優しさ」こそ、山田太一の一貫したメッセージであると私は考えている。（一九八四・九・八）

（福島県立医科大学教授・外国語講座）

（追記）今年になってから、山田太一のドラマは、「ふぞろいの林檎たちⅡ」（TBS）、「冬構え」（NHK）、「ちよっと愛して……」（NTV）の三本放送されたが、すべての作品に、上述のメッセージが托されている。

人口学との出会い

南条善治

私と人口学との出会いは、厚生省人口問題研究所にいた先輩から研究所入りをするめられた時で、もう三十五年も前になる。当時の東京は生活環境がきびしく結局上京は断念したが、現在までこんなに長く人口学とおつき合いが出来たのは数学しか知らない私にとって人口学の話がとても魅力的に思えたからだと思っ

づかれることと思う。たとえば、

。我が国の平均寿命世界一宣言

。人生八十年時代、老人も働ける社会

(人口白書)

。六十五才以上が十人に一人(高齢者の人口割合)

。女と健康国際会議「産む、産まぬは個人の権利」(阿姆斯特ダム)

。人口が少なすぎる。(フリータン)

。年少者なおやみ墮胎(イタリヤ)などである。

そこで人口学とはどんなものか、少しまじめにのべると

「出生、死亡、年齢構成や婚姻などの人口要因を集団として統計的に扱ういわゆる人口統計学の外に、人口と経済、社会、人文地理、公衆衛生などとの関連を総合した新分野の体系化を目指すものがある」のである。

私は今年六月初め、フィレンツェで行われる国際人口学会に出席すべく準備している次第である。

(福島県立医科大学教授・数学講座)

「チャリング・クロス街八四番地」

東京・三百人劇場公演

一九七〇年、アメリカで出版された

「チャリング・クロス街八四番地」(ヘレーン・ハンフ)という書簡集が、イギリスの前衛演出家、ジェームズ・ルース

「エヴァンス」の脚色演出で、ロンドンで舞台にのつたのが、一九八一年。一九八三年にはアメリカのプロードウェイ公演

さて最近の新聞の見出しをみると人口学に関連したものがかなり多いことに気

となったが、今年三月二十三日―二十六日に、劇団昂(すはる)が東京の三百人劇場で公演し好評を博した。吉岩正晴潤

色・演出(「比較文化研究第二号」に吉岩氏の演出ノート掲載)彼は、現代イギリス演劇の専門家であるがイギリス留学中

に、このイギリス公演を見て、ルース「エヴァンス」の脚本に多少手を加えて日本

公演の脚本を作った。新村礼子の「ヘレーン」内田稔のフランク。二人のヴェテラ

ン俳優の演技は勿論のこと、脇役の若い俳優たちの生き生きとした演技が印象的であ

った。また、ニューヨークの「ヘレーン」の書齋と、ロンドンのマークス社の店内

を舞台上にリアルに設定した装置や、時間の経過と共に数の変動する小道具としての本も印象に残るものであった。

ヘレーン・ハンフ新作出版

(ヘレーン・ハンフの新作が今年早々ニ

ューヨークで出版された。Helene Hanff,

Q's Legacy (Little, Brown & Co.)

である。文部省在外研究員として現在ロ

ンドン滞在中の佐藤憲和氏(弘前大学助

教授)が、昨年来、マンハッタンのハン

フのアパートでインタビューした記事

(「比較文化研究第二号所載」)によると、

当時既に出版手続きをおえていたと報じ

られているし、新作の内容についてもある

程度言及されている。ヘレーン・ハン

フの「イギリス志向」の問題の総決算と

でもいふべき作品である。表題の意味は、

例の英文学評論家キラ・クーチがハンフ

に残してくれた遺産の意であり、ハンフの英文学評論がうかがえる筈である。

〈近況報告〉

弘前大学 宇野秀夫

私は文部省在外研究員として、昭和五八年一月から二〇ヶ月、トマス・ハー

ディの小説研究のため、トロント大学およびロンドン大学ベッドフォードカレッジに留学。トロント大学では、著名なハ

ーディ学者マイケル・ミルゲイト教授から研究上の有益な示唆を得ることができた。イギリスでは、主任教授I・S・ユ

ーバンク博士のご専門シエクスピア劇およびヨーロッパ小説のセミナーに出席

するかわら、ハーディ・カントリーをはじめ、イギリスの風物・人情に触れる

ことができたことは大きな収穫であった。

宮城県名取高校 松井義武

小生高校教師です。

・若き等の眉上げ行くや寒野面

(或同僚曰く「うちの生徒でそんな風

なのいるかしら……」)

・「頭に来る」をよく生徒達が言う。

「教卓はちゃんと曲っていたら直しておけ」「頭に来る。何で私がやらなくてはなんないの。自分で直したらよかんべ。」

授業中に生徒に質問すると「頭に来る」

こっちが頭に来て「こんなことで頭に来るんなら、学校に来るな」という調子。

弘前大学医療短大 西村清巳

姉妹校テネシー大学マーチン校と交流が始まって十年目、記念に学長とマーチンに招かれ、比較文化学会が終ったその足で出発します。今年ハワイ大学大学院を出て二十年目。その集まりも七月ホテルでとの話もあり、忙しい年です。

弘前大学 花田 隆

シンポジウムについての提案ですが、今度は学会のビジネス・セッションで、次期会場を発表する際同時に、来年のシンポジウム・テーマを決める宿題(テーマ)方式にしたらより一層充実したシムポジウムになるのではないだろうか。それには例えば、大会開催支部が叩き題として次期テーマ試案を複数提出し、大会(理事会か総会)で決めるというやり方など考えられます。各位のご意見をお聞かせ下さい。

弘前学院大学 佐藤 幸正

地方の時代が叫ばれて久しいが、政治経済・文化等すべて東京中心では日本人の思考も定形化されてしまう。芸術や文化に、あるいは大学に、世界に通じる地域性や土着性があるって良いではないか。

地域の活性化に「学会」が手を差し述べた良いのではないか。

青森大学 藤原 廉作

東北女子大学より青森大学に移り一冬越しての一年間、やや慣れやと落ちついた有様です。依然単身赴任も八年間。帰京心もやゝ出てる次第。今夏再々(四回目)のロス大渡米(英文法研究)の予定です。

野辺地工業高校 町屋 昌明

七月二四日、成田発は決定しているのだが、エンジン・ブレディングの両大学のどれになるか定かではない。早くワーズワースの国へと心はあせるばかり。

夜行館 笹原 茂 朱

昨年ひきつづき、「小屋掛けの周辺II」として、今回発表しますが、「現代演劇の前線に小屋掛け芝居が存在できるのか、この可能性の模索」をつづけています。

百石高校 小林 一也

この度、兵庫教育大学大学院を修了し、青森県立百石高等学校に復帰を命ぜられ、過日着任致しました。現場での生活の方が私には向いているように思います。

〈事務局だより〉

投稿についてお願い

次のような規定で、原稿をお寄せ下さるよう、お願い致します。

1 研究発表レジュメ

(1) 4月末日必着で事務局まで。

(2) 横書四〇〇字詰原稿用紙、B5判(西洋紙半分大)2枚。

レジュメはそのままコピー、製本致しますので、できればワープロ等でタイプした原稿ですときれいです。

2 シンポジウム レジュメ

(1) 及び(2)とも研究発表の場合と同じ。

3 「会報」記事について

(1) 4月末日必着で事務局まで。

(2) 研究発表とは異なり原稿の大小は問いませんが、一段は18字×32行に組んでおります関係上、18字×〇行で投稿願います。

(例)近況報告欄ですと18字×7行。

4 研究論集「比較文化研究」

(1) 毎年4月20日必着で、福島医大外国語講座芳賀馨教授まで。

(2) 詳細は芳賀馨教授までお問い合わせ下さい。

「比較文化研究第三号」発行要目

「比較文化研究第三号」の各種原稿

(論文・エッセイなど)を目下募集中である。三号は、編集責任者が太田敬雄教授(新島学園女子短大・370高崎市昭和町53番地。電話〇二七三二六一一五五)である。会員は自由に投稿できるが、製品一頁(四百字詰原稿用紙二枚強)あたり三千五百円程度の自己負担を必要とする。原稿メ切りは七月末日。九月発行の予定。なお、詳細は、太田教授に照会のこと。

論集「比較文化研究(第二号)」

発行

『比較文化研究(第二号)』(編集責任者・芳賀馨)が一九八五年六月一日発行された。二号は、ヘレイン・ハンフ「チャリング・クロス街八四番地特集」として、同書簡集に関する論文・エッセイ・読後感・演出ノート・訪問記など多様な議論が収められている。特に、テレビドラマ脚本家山田太一の読後感や、東京公演の演出家吉若正晴の演出ノートなどは異色の貴重な原稿である。本号から「談話室」という場を設けて、各界からエッセイの寄稿があったし、第一号論文三篇に対する批評も掲載した。第二号掲載論文は、芳賀馨、町屋昌明、森一各氏の三篇。本号は創刊号に比して、紙質がよく、頁数も多いので幾分豪華である。